

5. 少子高齢化社会において市立図書館が担う役割について

- (1) 自動車文庫車両を軽自動車に買い替えたと聞いているが、利用者からの声はどのようなものか聞く
- (2) 図書館の高齢者利用の割合について、最近の動向について聞く
- (3) 図書館利用を伸ばすための取り組みについて、これまでどのような改革や取り組みを行ってきたのか聞く
- (4) 今まで以上の利用者増加を図るため、読書通帳機器を導入したらどうかと思うが、市の見解を聞く

**【答弁】**

続きまして、ご質問の5. 少子高齢化社会において市立図書館が担う役割について(1)から(4)まで順次お答えさせていただきます。

図書館は図書館法の理念や「富田林市子ども読書活動推進計画」に基づき、様々な業務を実施しています。

(1)につきましては、平成30年12月の自動車文庫の更新により積載冊数は2,500冊から550冊となり、利用者からは、小さくなり選べる本が少なくなったとお声もありますが、一方では、載せている本が厳選されているので借りたい本が選びやすくなった、本を隅々まで見ることができるといってお声もいただいています。毎回各ステーションの利用状況に合わせ本を大幅に入れ替え、利用者に次回に希望される本を伺い記録し載せるという工夫をしております。

また、自動車文庫の小型化により幼稚園の園庭に乗り入れることが可能となり、通常の地域への巡回の他に希望される公立幼稚園への訪問・貸出を今年度から始めたところでございます。

続きまして、(2)につきましては、最近5年の数値で見ますと、貸出人数における60歳以上の利用率は、平成26年度40.4パーセント、平成27年度41.5パーセント、平成28年度42.8パーセント、平成29年度44.5パーセント、平成30年度45.9パーセントとなっております。年々貸出人数に占める高齢者率が上昇しており、日々のカウンター業務から、毎日来館され、新聞や雑誌を閲覧されたり、貸出をされる高齢の方が増えているのを実感しているところです。

次に（３）につきましては、午後８時までの夜間開館や祝日開館による利用時間の拡大により市民の利便性を図りました。

「富田林市子ども読書活動推進計画」に基づき、子ども達が1日の多くを過ごす学校へはブック便による学校図書館への団体貸出の実施、そして学童クラブへも団体貸出の配本により放課後の子ども達の読書環境の充実を図っています。絵本の楽しさや読み聞かせの大切さを伝える保護者を対象とした図書館出前講座の開始や、平成28年度には読書のきっかけづくりと読書習慣の定着を図るために、市内小中学校の全児童生徒へ読書通帳の配布をしており、50冊読み終わったらとっぴーシールとともに2冊目以降を図書館でお渡ししています。また、テーマに沿って本を集め袋に詰めたおたのしみ袋は、冬休みに図書館へ来るきっかけとなり、子ども達には大変人気で用意した100袋は2～3日で貸出されています。

第2次計画が策定されてからは、母子健康手帳交付時に絵本の紹介などのリスト「もうすぐママになれる方へ」を配布し、妊娠期のお母さんに図書館を利用してもらえるきっかけづくりとしています。

庁内各課との連携協力としましては、教育指導室、高齢介護課の読書感想文コンクールや観光交流施設きらめきファクトリー主催の「帯とんコンテスト」があり、子ども達と本との出会いを進めています。若者の利用が多いきらめき創造館Topicにおきましては、本屋大賞や怖い話をテーマにした展示貸出を実施いたしました。

大人の方への取り組みとしましては、「おとなのための朗読会」や毎年10月の読書週間に合わせて大人向けのおたのしみ袋を開始いたしました。

今後、図書館利用を伸ばすためには、市のフェイスブックや広報により更なるPRが必要と考えているところです。

最後に（４）につきましては、先程紹介いたしました読書通帳は、図書館職員の手作りで作製したもので、学校及び学校図書館教育支援員と連携し、図書館で借りた本だけでなく学校で借りた本も記入できることが本市の特徴です。

読書通帳の機器導入により、他市では子どもの貸出点数が増加したとの例もありますが、本市独自の読書通帳を活用していますことから、ご提案の機器導入につきましては、今後の研究が必要と考えております。